エンカウンター（ＥＮＣＯＵＮＴＥＲ）

第　３９　号

平成１７年7月２０日

編集・発行人　〒224-0015　横浜市都筑区牛久保西 2-14-28　山口周三

電話　045-912-1960

新渡戸稲造「一日一言」より（６）

１２月３日

怒るべき人に怒るはまだしものこと、その怒りを罪もなき人に移すは、短慮も愚を越えて狂に近い。役所や店などで争って、癇癪（かんしゃく）の土産（みやげ）を我が家に持ち込み、何も知らぬ家族に当り散らすなどは世に少なからず。

なぐるなら噛みつく犬を擲（なぐ）るべし

などか家なる猫叱るべき

１２月４日

心配の仕溜（しため）の役に立たぬことは食い溜と同様なり。食事は腹のすいた頃に営むべく、時を計りてあらかじめ注文もできるが、世の中の事は予想通りに起こらぬ、かねての心配は無益となる。ただ平素消化器の健全に注意するは必要。日ごろから判断力を養うて置けば事に当たりて迷わぬ。

世の中は月にむら雲花に風

おもふにわかれ思はぬに逢ふ

１２月８日

慈善をしたと思うは大の過（あやまち）。真の慈善は布施者の自覚に上らぬ。当人の知らぬところに慈愛がある。知りて施せばもはや慈善でないのみならず、恨みを受くるもととなる。

隠匿の法を知らば目の当たり、
蒔きたる種の生えるのを見よ

１２月９日

人の動機はなるべく好意をもって解すべし。証拠もなきになぜ疑わん。人の言行を曲げて解するは、人に対して不親切なるのみならず、己に対しても不忠なり。罪ある人さえ宥（ゆる）すべきに、罪なき人を悪様（あしざま）に考うるは、自己の思想を卑しくするなり。

悪しきをも善しととりなす心こそ
まことの人のしるしなり
あながちに人をわるしと思ふなよ
人の悪きはわがわるきなり

１２月１０日

高の知れたるこの世に、ことさら争うほどの事はなはだ少なし。無上に貴きものは争わで得べし。日光も無償、月も代価なく、花も公開。小児の笑い、親の心、友の信義、神の恩恵、仏の照護は到る所にあふれあり。金銭を払うて獲る者は、皆値段に限りあるもののみ。金で買われぬ無限の宝を需（もと）むべし。

哀れなりたとへば思ふあらましを
かなへたりとて幾程の身ぞ

１２月１３日

時節到来を待つはいたずらの業。人を救うの時、善をすべきの時、悪を避くべきの時、事を始むるのとき、いつも眼前足の元にある。なんぞ他日を待つの要あらん。

徒（いたず）らに時運を待ちて暮らしつつ
　　飢の境に近寄りにけり
散らぬ間に今一度（ひとたび）も見てしがな
　　花に先だつ身ともこそなれ

１２月１６日

縁の絆（きずな）は時代と共にいよいよ長く強くなる。一樹一河はいうもさらなり、同じ電車乗る縁や、同じ水道の水飲む縁とてなかなか浅きものでない。同じ市に住むものは、互いの便を計りて公徳を重んじ、同じ車に乗る者は互に席を譲るのは、縁の絆の結ぶ故である。

かたきでも思ひまはせば憎からず
　　善きも悪しきも縁と思へば

１２月１７日

君子意思は内に向う。己独り知る所を慎んで、人に知られんことを求めず、天地神明とまじわる。その人がら光風霽月のごとし。

（熊沢蕃山）

山深く何か庵（いおり）を結ぶべき
　　心の中に身はかくれけり
神代とは経（ふ）りし昔のことならず
　　いまも神代と知る人ぞ神

１２月２１日

記憶の力も、吾人の意思によって制し得べし。人より受けたる災いや、罪科深き過去や、耳目を穢（けが）せる言行などは皆さっぱりと忘れたい。永久記憶に留めたきは、人より受けし恩や、見聞きしたる徳行なり。

忘れんと思うふ悪事は忘れねど
善き事のみぞ常に忘るる

明治天皇御製

慕はしと思ふ心や通ひけん
昔の人ぞ夢に見えける

１２月２３日

霊魂の滅不滅は、いくら論じても論じ尽くせぬ。それもそのはず。これは論理の歯牙（しが）にもかからぬ問題なればなり。山深く退き、あるいは広き浜辺に立ち、あるいは親の墓に詣でて、人は土塊に過ぎざるやと心静かに自ら問わば、おそらく論理以外の答えあらん。

白波もよせ来るほうにかへるなり
人の行くへを知るよしもがな

１２月２４日

この世に、さまざまの種類があるが、中にも、親子一族うちくつろぎ、睦まじきに優るものはない。互に遠慮のない仲にも敬愛の念備わり、甘き辛きも共にする親子夫婦の間柄は、人の最良なる性格を発揚し、地上に天国を実現する道である。世務繁き人も、機（おり）を求めて楽しむべきは一家団欒（だんらん）の祝福である。

明治天皇御製

親も子も親しみかはし家の内の
賑（にぎわ）へるこそ楽しかりけれ

１２月２９日

西暦１８０９年の今日グラッドストン（１８０９－９８）生まる。彼は誠心をもって神と人と国とに奉ぜる人。

真に人のために尽くさんと願うものは、身は低くして人に仕うる心得をすべし。よく人に使わるる者は人を使うなり。甘んじて人の下におるものは、人は人の上にあげる者なり。人上げずとも天は上ぐ。天上げざれば喜んで下に在り。

人の上越したがるほど越されぬぞ

下を行くときおのずから越す

１２月３１日

いよいよ今年も終らんとする。過ぎし１２ヵ月間に何を成就したかと独り静かに顧みれば、昨年と同じようにやはり後悔すべき事のみ。

徒（いたずら）に過ぎし月日のしのばれて

殊更をしき年の暮かな

しかれども悔ゆるは改むるの端緒。来年の今年はまさか同じ後悔を繰り返すことはあるまじ。新年を迎えるうるに新たなる勇気と決心をもってすべし。いよいよ旧を捨て新に就かん。